

医療法人名古屋放射線診断財団 岩田 宏 理事長インタビュー

発見し難いがんや転移などの画像診断を専門的・総合的に実施して”ガン征圧”に貢献している医療法人名古屋放射線診断財団（岩田宏理事長）。同法人が運営する東名古屋画像診断クリニックは2008年の開院以来、先進的・総合的診断を積み重ね、信頼を得てきたが、来年秋、千種区より昭和区山手通に新築移転してさらに飛躍しようとしている。岩田理事長に話を聞いた。

（聞き手は塚本隆編集長）



座右の銘は「念ずれば花ひらく」 医療に関しても経営に関してもそれは揺るがず

―理事長就任以来20年。この間の成果をお聞かせください。

岩田 財団は、偕行会グループ（川原弘久会長、本部・名古屋市中川区法華）が2001年、立ち上げ、私はその2年後に理事長就任。本部と同じ中川区にある名古屋放射線診断クリニックでPET-CT（陽電子放出断層撮影）を日本で初めて臨床に導入しましたが、それまでは研究用として名古屋大学医学部などにしかありませんでした。そして2008年、東名古屋画像診断クリニックを開院した時はPET-CT3台、CT（コンピューター断層撮影）、MRI（磁気共鳴画像）2台が整備されました。

当時はPETも知られておらず、機器は高額で維持管理費もかかり、健診費は高額となり、営業は大変でしたが、精度の高いものを目指してきたおかげなのか、このPETを中心としたセレブ健診は東海エリアの有名企業の方々などに活用されるようになりました。人間ドックのリピート率は一般的には30～40%程度ですが、当院は80%超。信頼されていると自負しています。健診の会員約5000人に対し、フォローアップを行っています。セレブ健診は年間1200～1300人が受診しています。

もっとも健診だけでなく、保険診療も行ってお

り収益の6割が依頼検査などの保険診療で4割が自由診療（健診）によるものです。

―導入機器の意義について教えてください。

岩田 もともと隣地の愛知県がんセンターさんの土地を借りて建設し、PETをはじめとした検査を担っています。PETの主眼は、がんの有無、広がり・転移・再発を高精度に評価し、治療方針や効果測定に役立てることです。ただPETだけではなく、MRIとCTを含めて検査して総合判断することが大切です。MRIは磁場の強さ1.5テスラと3.0テスラの2台ですが用途によって使い分けています。CTは肺などPET検査だけでは判別が難しい臓器に有効です。

PETは分裂能力の高い悪性のがん細胞に敏感に感受します。それらを総合的に診るのですが、医療機器は日進月歩で、画像の鮮明化などソフトは必要に応じて入れ替えてきました。また、むろん技師の撮影技術や医師の読影能力も問われる。機器だけでなく人材も重要です。

―法人設立から24年。PET-CT検査数は？

岩田 20万件を超えています。年間で1万件以上。日本にある約300施設の中でトップクラスの実績を誇ります。理由の一つはPET撮影時に注射する薬剤FDG（フッ素にグルコースを付けた放射性薬剤）を自前で調合している点。体重